

2019年3月



青葉区民会議ニュース

50号

事務局 〒225-0024 横浜市青葉区市ケ尾町31-4 青葉区役所区政推進課広報相談係内
 Tel:045-978-2221 Fax:045-978-2411 Email:mail@aobakuminkaigi.com
 URL:http://www.aobakuminkaigi.com/ または「青葉区民会議」で検索



だれもが移動しやすいまちへ《地域と小さい交通》

「青葉区民のつどい・交通まちづくり公開講座」を3月3日(日)に開催しました。



昨年4月に開催した「これからのまちづくりと小さい交通」の第2弾として、地域交通を担っている方々や青葉区内での新しい取組について現状や課題についてお聞きしました。

第一部では、昨年10月に改定された「横浜都市交通計画」の中から基本方針1-市民生活の質向上につながる交通政策を中心に解説していただきました。第二部では4人のパネリストから具体的な実施内容や課題についてお聞きすることができました。さまざまな取

組の紹介は、青葉区で今後どのように地域交通を考えていくのがよいか、大きなきっかけとなりました。

■ 第一部「地域をささえる交通と横浜都市交通計画改定ポイント」

橋詰勝彦さん 横浜市都市整備局都市交通課長

■ 第二部 さまざまな地域交通-課題とこれから

- ・港北区-菊名おでかけバス 清水弘子さん コミバス市民の会世話人
- ・緑区-山下地区ささえあいバス 菅沼繁晴さん
(一社)山下地区安全・安心まちづくり協議会理事/ささえあいバス委員会副委員長
- ・横浜市-地域交通サポート事業 馬場明希さん 道路局企画課交通計画担当課長
- ・東京急行電鉄株式会社-郊外型Maas 森口 雅昭さん 東京急行電鉄株式会社開発事業部事業統括部次世代郊外まちづくり課課長補佐



最後に橋詰課長のコメントをいただきました。「地域交通の持続性を考える上で、移動ニーズを創出することは重要です。例えば地域の昼食会やお花見なども外出機会となります。商店街や企業によるイベント情報を皆で共有するなどの仕組があれば、移動ニーズの創出、イベント参加者の増加と、お互いが良くなる関係が築け、地域交通の担い手発掘にもつながるのではないかと思います。行政としてもそのような取組を支えていくことが大切だと感じました。」

「今年には青葉区制25周年です。青葉区誕生と共に歩んできた青葉区民会議も25年目を迎えています。現在12期目の活動中です。今号も50号!! 継続は力なりです。区民のみなさん一緒に青葉区のまちづくりに参加しませんか? 50号発行を記念して、小出青葉区長にインタビューしました。(4面に記事)」

50

入手先: 青葉区役所、地区センター、地域ケアプラザ、区民活動支援センター、図書館、区民利用施設など

回覧																			
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

承認
区連会21号

発行: 青葉区民会議

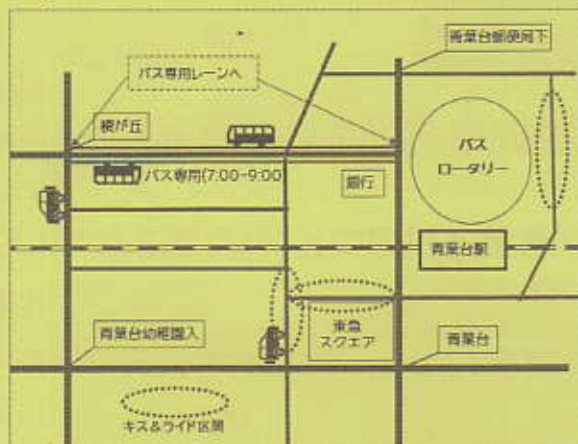
区民会議は青葉区の課題をテーマに活動します

■青葉台駅周辺の混雑緩和策のヒントをマルシェに見つけた！ 12/1/2018(土)



青葉台で初の歩行者天国が青葉台駅前から榎が丘の間約200mで実施され「青葉台祭り マルシェぶらりーと青葉台2018」が開催されました。この区間には6系統のバスが一日約550本運行され、当日は「青葉台幼稚園入り口」を経由して青葉台駅前に到着する迂回路による運行となりました。2017年12月に青葉区民会議でおこなった「交通まちづくりアンケート」でも各駅周辺の混雑緩和への要望が多く、「公共交通網の改善」「一方通行の導入で流れを円滑に」「駅周辺への一般車両の進入規制」等の要望が上位を占

めました。青葉台マルシェ開催中の迂回路の状況から、青葉台駅前の通学通勤時間帯混雑緩和対策を考えるヒントになりました。図らずも迂回路の実証実験となり、次のようなことが部会で話し合われました。①バス専用レーンの設置⇒「榎が丘⇔青葉台駅前」を朝夕混雑時バス専用道路へ ②キス&ライド用降車エリアの活用⇒青葉台駅周辺に2箇所に設置してある「キス&ライド用降車エリア」の利用を再度告知し、駅への車の集中を抑止 ③一方通行を採用し、流れを円滑に⇒上記降車エリアへの車の誘導を円滑にするため、周辺を一方通行にする。また、駅タクシーベイは朝夕はタクシー専用とするか、出口を左折のみとする 以上を実施することで、特に朝夕の混雑は緩和され、青葉台駅利用者が安心して通行できるものと期待しています。



■防災・減災公開講座 2/10/2019(日)「地域における安否確認、避難所、福祉避難所との関係は？」



講師は一般社団法人福祉防災コミュニティ協会副理事長の高橋洋さん。前日からの大寒波大雪情報などが流れる中、好天に恵まれ大勢の方の来場がありました。会場参加の防災クイズでは貴重な意見を出された方に景品がでる形式で、答えにもそれぞれの考えがあることに気づかされました。福祉避難所の役割を学ぶとともに、一番大切な人を守るためにも、まず在宅避難の安全性を高めるといった基本姿勢への呼びかけがありました。休日の昼間に大地震！建物被害が無いという想定で、すべきことは何かクイズでした。多くの人が答えた「周りの人と声がけをして避難所へ行く」も正解としましたが、行く必要のない人まで避難所へ行ってはバクンとします。地域の安否確認には日ごろからの受援力も視野にいれ、訓練準備が必要です。最後に「できることと、できないことを、しっかり見定め、できないことは、誰の力を借りて実現していくのかを、日頃からの勉強を通して、準備する」とまとめがありました。なにが出来ていないのかを振り返る必要があります。



<流域で自然と災害を考えるシリーズ4>「総合治水対策が進んでも・・・」

森林や田畑がコンクリートで覆われた街に変わると、降った雨はそのまま川に流れ込み、洪水の危険性は高くなります。鶴見川流域は急激な都市化のため、60年前には10%だった市街地が2015年は86%になりました。そのため流域での洪水、治水対策が必要となり、1980年に「総合治水対策協議会」が発足しました。具体的な対策として保水・遊水機能が低下しないよう調整池や調節地の建設などを推進しています。2003年より鶴見川多目的遊水地の供用を開始し、それ以降洪水被害は発生していません。鶴見川は都市にある河川では「総合治水対策」の先駆けとなっている川と流域です。

それでも近年は気候変動によるかつて経験の無い気象現象が発生しています。局所豪雨が長時間集中し総雨量が多くなると予想できない土砂災害が発生する可能性もあります。河川や下水道が整備されて水災害に対する危機意識は薄らいできています。しかし、被害を防ぐためには洪水災害の危険性を理解し、気象情報の変化をいち早く得て自分の判断で早めの避難行動を起こすよう日頃から心がけることが大切だと思います。



(参考) 鶴見川流域水害対策計画

区民会議では毎月勉強会を開催します。内容やスケジュールについては青葉区民会議ホームページでお知らせします。参加希望の方は区役所広報相談係へご連絡ください。

区民会議では勉強会で深く課題に取り組みます

区民会議委員のこんな活動

区民会議の委員は現在3部会に分かれて活動しています。中にはさらに地域活動や区・市の委員会や事業に参加している人たちもいます。どのように区民会議活動に生かしているのか聞いてみました。今回は、環境創造局横浜みどりアップ計画市民推進会議に公募委員として参加の加茂千津子さんです。

(推進会議：有識者関係団体10人公募5人)

Q:参加の動機は？ 区民会議委員として自然や環境に関わってから、水と緑の環境に関心がありました。横浜市は2006年に「水と緑の基本計画」を策定。「横浜みどり税」を導入しさまざまな事業を「みどりアップ計画」としてスタート。みどり税で緑の環境はどのように守られていくのか、その実態を知りたいと思い5年前から参加しています。

Q:どのような活動ですか？ 5人の公募委員は「森を育む」「農を感じる」「森を作る」という施策を検討する3つの部会にそれぞれ属しています。このほか5人全員が所属する「広報・見える化」部会で、みどり税がどのように使われているのか「税が導入されている活動」取材しニュースレターみどりアップQに掲載しています。

Q:区民会議の活動へは、どのように生かしていますか？ 緑の保全など横浜市が行っているさまざまな施策情報をいち早く得たり、分からないことを確認したりできます。一市民では得られない情報を基に区や市への要望提案へ生かしています。



【12月勉強会】12/2/2018 田園都市線駅周辺のまちづくりプランについて

青葉区役所区政推進課担当課長 吉田和重さん



青葉区では「都市計画マスタープラン（青葉区まちづくり指針）」改定に続き「田園都市線駅周辺のまちづくりプラン」の見直しが始まっています。青葉区内の田園都市線7駅の内、現在藤が丘駅周辺プランについて地域住人の意見を集め、31年度に改定されます。他の6駅についても順次意見募集が始まります。今回、どのような点が見直しポイントになっているのか説明していただきました。

・駅周辺の住人は、鶴見川を境に行動傾向が異なる。目的によって住人は最寄りの駅以外の駅へ移動している。これは駅ごとの特徴＝機能を便利に使い分けられていると思われる。青葉区のまちづくり指針でも駅ごとの機能が書かれているがまさにそのような使い分けがおこなわれているのが分かった。
・全駅に各種機能をそろえるのではなく、駅ごとに機能分担をし沿線全体として機能を使い分ける考え方が紹介された。駅周辺だけでなく駅と郊外地域との移動手段（地域交通）も確保されれば、さらによくなるのではとの意見が委員から出されました。

【2月勉強会】2/28/2019 横浜型配達弁当「ハマ弁」について

教育委員会事務局健康教育課担当係長 田邊翔さん 岡崎尚範さん



横浜市の中学校昼食は、家庭のライフスタイルや日々の都合に合わせて、ハマ弁、家庭弁当、業者弁当から等しく選べる選択制として実施しています。2016年度に導入されたハマ弁は、給食としてではなく昼食の選択肢だと改めて理解しました。肉・魚から選んでいた主菜が、昨年秋より1日1種類の日替わりメニューとなり、献立の内容を充実しています。

また、注文方法をより便利にするなど工夫をしています。喫食率の現状や、試食できるハマ弁デー、ハマ弁の良い部分や課題などの説明がありました。ハマ弁の利用が進まない原因はどこにあるのでしょうか？ アンケートや試食会での意見からは、利用する親側の気持ちと、食べる子ども側の気持ちにずれがありそうです。ハマ弁は横浜市と事業者が2016年度から5年間の協定を締結しており、現在の協定期間は2020年度までとなっています。



区民会議ではウェブアンケートを実施中です「青葉区みんなの声」です。

区民会議の活動についてを第1弾アンケートではお聞きしています。

第2弾では災害への備えについてお聞きしています。ぜひご参加ください。

そしてあなたの声を届けてください。

青葉区民会議ではみなさんからいただいたご意見を参考に活動に活かしていきます。



区民会議ニュース・カラー版は青葉区民会議ホームページで！



第1弾アンケート



第2弾アンケート

50

区民会議ニュース50号発行記念 区長インタビュー

区民会議ニュース50号発行を記念して、小出重佳青葉区長にインタビューしました！！

青葉区の強みは区民の活動が活発なことです。それを生かした区の事業《あなたの力の1%をあおばの未来に！》の話題がいろいろと飛び出しました。

■1%へのきっかけづくり 昨年度区役所一階ホールを全面リニューアルしました。木製のテーブルや椅子を配置し、リユース文庫や閲覧用図書なども置いたので、本を手に取りゆったりと過ごされている区民の皆さまの姿を目にします。区民活動支援センターも昨年8月からこちらへ移転しましたので、ボランティア活動のチラシや展示を見る機会も増えて、区役所へ手続きで来られた方が様々な活動や講座を知る「場」として活用いただけるのではと思います。このような場をきっかけ（点）として、セミナーなどへの参加（線）となり地域の人とのつながりや多様な活動へ展開し（*1）（*2）、青葉区全体（面）に広がっていくことを期待しています。



■若い世代からの1% 数年前に転入された方が「このまちが子どもたちにとって特別なふるさとであり続けて欲しい」と町内会のたよりに書かれているのを読みまし。ふるさと青葉と一緒に作っていききたいという熱い思いに感激しました。あおばこどもシステム（*3）の一環で、転入者向けとして、子育て中の親子と一緒に豊かな自然や魅力スポットを巡る「Welcome あおば子育てツアー」をNPOに協力していただき、好評です。若い世代の人たちにも青葉区をよく知っていただき、可能なことから1%の力をお出しいただくことを期待したいです。

・区長の息抜き・・・忙しい毎日。リラックスタイムは、音楽を聴くことだそうです。最初買ったアルバムはサイモンとガーファンクル。エルトンジョンのコンサートへ行ったりボヘミアンラブソディーも見に行かれたそうです。時間があると区内を歩くとのこと。春だと、たまブラザーから百段階段を通り保木へのコースがお気に入りの一つだそうです。みなさん、どこかで区長とすれ違っているかもしれませんよ・・・。

（*1）あおばdeスタートセミナー：活動の始め方の基礎を学ぶセミナー
セカンドキャリア 地域起業セミナー：経験や知識を生かした地域での起業を学ぶセミナー
（*2）市ケ尾ユースプロジェクト：市ケ尾中学校・市ケ尾高校の生徒 × 地域の人・企業 × 青葉区役所 × NPOによるまちの未来づくり

（*3）あおばこどもシステム：子どもに関わる人々が横断的に連携することで支援を深めていく仕組み
（一部を下記各課訪問でも説明しています）



青葉区役所 各課訪問シリーズ③ 福祉保健センター『こども家庭支援課』



《子育て支援担当係長 横田慈さん、学校連携・こども担当係長 西村明展さん》

「福祉保健センターは、福祉事務所と保健所の機能を持ち、福祉と保健に関する相談からサービス提供まで全てを一体的に対応する、2002年から始まった横浜市独自の取組です」福祉保健センターは総合庁舎窓口番号で27～37、61～65と2階3階に亘ります。今回は数ある窓口の中の『こども家庭支援課』にお聞きしました。

「様々な力を育み、健やかに育つ環境をつくる」「出産・子育てが楽しいと思える環境をつくる」「自助・共助・公助の意識から、社会全体でこども・青少年を育てる」の三つが横浜市のこども・子育て支援事業計画の基本となっています。

☺「あおばみらいわくわく会議」は青葉区ならではの試みの一つで昨年7月にスタート。大人がわくわくしないで子どもをわくわくさせられるか！を合言葉に、中高生の有志と共に、こどもがワクワクする企画が進行中です。

☺「Welcomeあおば子育てツアー」はNPO法人森ノオト協力のもと、赤ちゃんと一緒に歩いて回る《温かい地域の人と出会える子育てツアー》。今年は8回開催の予定です。赤ちゃんと一緒に青葉区の住みやすさを実感してもらえると嬉しいです。くお聞きして・・・ 今回の訪問では、お二人から「青葉区での子育て」に対する熱意が十分に伝わってきました。子育てはママパパ二人でするものじゃない、まちのみんなが応援するもの！という熱い心意気を感じられる二つの企画でした。子育て中のママパパは、困ったことがあったら、遠慮せずに近所の先輩に尋ねてみましょう。また、まちで子育てママパパを見かけたら笑顔で見守ってください。きっと可愛い笑顔が返ってくることでしょう、それが《青葉・愛です》

青葉区民会議に参加を希望される方は、氏名・年齢・住所・電話番号・メールアドレスを書いて

青葉区役所 1階広報相談係へ Tel:045-978-2221 Fax:045-978-2411 メール: ao-koho@city.yokohama.jp

編集：青葉区民会議広報委員会 事務局：青葉区役所区政推進課広報相談係内 〒225-0024横浜市青葉区市ケ尾町31-4 Tel.978-2221